

留萌市平和祈念式典

8月18日(金)に中央公民館で、平和祈念式典が行われました。

本校からは、代表として生徒会長が出席し、平和のメッセージを読み上げました。



平和へのメッセージ

皆さんが 生きている現代社会は 「平和」 ですか。

僕は 「平和」とは 戦争がなくて、 命の危険について 常に深く考えなくてよい状況だと 考えます。 なぜなら、僕は 戦争のせいで 常に 命の危険について 深く考えなければならない人達を知っていて、 そんな状況にある人達を 「平和」 だとは 思わないからです。

皆さんは 「平和」ではなくしている「戦争」について どう考えますか。 最近で言えば、 ロシアによるウクライナ侵攻です。 ウクライナが NATO に加入しようとしたため、 それを気に入らないロシアが ウクライナへ攻撃を始めたというもので 今でも続いています。 国によって いろいろと事情はあると思いますが、 国民は どうなるのでしょうか。 ネットで 戦争中である国の国民の状況について 調べてみました。 その結果、ウクライナ国民は、 家族と離ればなれになってしまったり、 ご飯が食べられなかったり、 死んでしまったりと 僕たちでは 経験したことがない程に ひどい状況下にあります。 さらに、 戦争で被害をこうむるのは、 侵攻された国の人達だけではありません。 国の勝手な事情で 日常を壊され、 死と隣り合わせで 働かされる兵士たち、 その家族や 他国での物価高騰など、 あらゆる面で あらゆる人達の日常に影響をもたらし、 平和から遠ざかります。 そして、 我が町「留萌」でも、 昭和 20 年 8 月 22 日、 樺太三船殉難事件が 起こりました。 第 2 次世界大戦終戦後、 樺太から 小樽に向かっていた 緊急引き揚げ船の 小笠原丸、 第 2 振興丸、 泰東丸の三船が 旧ソ連軍の攻撃を受け、 1708 名以上が 犠牲になりました。この事件は、 私たち、 いち日本国民、 いち留萌市民として 決して 忘れてはいけない事件です。 市民の方々が 救助活動をしていたという話を聞き、 そのおかげで 被害を最小限にできたと思い、 その方々を 心から尊敬し、 僕も そんな場面で 力を発揮出来る人になりたいと 思いました。

ある時、 テレビで 「この世界の片隅に」 という映画を見ました。 想像力が豊かで絵を描くのが上手な 広島で生まれた女の子 すずが主人公です。 そのすずが 夫の周作と その家族に囲まれ、 戸惑いながらも 嫁としての仕事を覚えていき、 姪（めい）の晴美と大好きな絵を描くなど、 戦争中ではあるが、 ささやかで 楽しい生活を 送っている様子が 描かれていました。しかし この物語の終盤で 戦況

が悪化し、次第に空襲警報も増え、義理の父もケガを負い、徐々に日常がこわれていくそんな中、突然の空襲で晴美が死んでしまい、すすが絵を描くための右手も失う場面は、とても切なく感じました。僕は、この物語を見て、戦争の残酷さを痛感しました。僕たちが生きている当たり前前の生活とは程遠く、常に命の危険について深く考えさせられるそんな時代があったと気付かされ、今生きている「平和」と言えるであろうこの時代がとてもすごいもので、自分がいかに幸せかということを確認できました。他にももう一つ印象に残ったセリフがあります。すすが、敗戦を知らせるラジオを聞いたとき「そんな覚悟の上じゃないかね！最後の1人まで戦うんじゃないのかね！」というセリフです。優しいはずのすすが今までの苦しみから敗戦をすぐに受け入れられず、こんなことを言うほど追い詰められ、戦争などしたくないのにそれを望むほど追い詰められてしまう戦争は本当に怖いと感じました。

皆さんは今、平和に過ごせていますか？僕は戦争のせいで命の危険について深く考えることなく楽しく過ごせています。戦時中よりも、とても生きやすく平和な世の中に僕たちは生きているからこそ、戦争という過去から目をそらすことなく向き合うことが大切だと思います。

戦後78年。今日のこの平和祈念式典を通して、今、僕たちがここで生きられていることに感謝しながら、日々過ごしていきたいと思います。また、日々の生活の中で、自分たちの言動が安全や平和につながるように努めていきたいです。そして、各国が互いに協力し合い、世界中全ての人々が「命の危険について深く考えなくてよい」そんな平和な世界になることをずっとずっと願っています。

留萌中学校 生徒会長